

導入事例 Casestudy

元住吉くろさき呼吸器内科クリニック様

J-MAC

SYSTEM

開業医必見!

データ無制限・低コスト クラウドPACS「Climis」の魅力に迫る
～コスト削減×院外画像閲覧×地域連携 クリニック経営に与える効果とは～



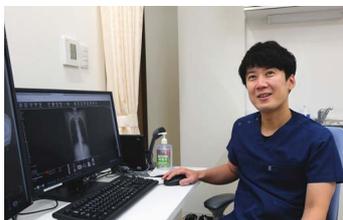
医療 IT 化が進み、クリニックにおいても各検査機器がデジタル化し、PACS 導入により診察室でモニターを見ながら患者説明をすることが一般的になっています。PACS には主にオンプレミス型、クラウド型のタイプがあり各メーカーから販売されていますが、クリニックが求める PACS とは何か、導入時の課題や導入後のメリットなどを、元住吉くろさき呼吸器内科クリニックの黒崎 裕一郎院長に伺いました。

地元で発熱外来と呼吸器に特化した内科クリニックを

元住吉くろさき呼吸器内科クリニック 黒崎 裕一郎 先生 に聞く

-- クリニックを開業した経緯についてお聞かせください。

2022年5月に川崎市元住吉にクリニックを開業しました。私は生まれも育ちもここ元住吉です。新型コロナウイルス感染症の流行で、患者さんが安心してこれる発熱外来が地元にも必要だと強く感じたのがきっかけで開業しました。



黒崎 裕一郎 院長

-- クリニックの特徴を教えてください。

呼吸器内科と発熱外来に特化していることです。出入り口や動線などを分けて、どちらの患者さんも気兼ねなく診療できるようにしています。また、呼吸器内科としてはCTを備え、肺など呼吸器の検査や診療を充実させています。この地域に内科はたくさんありますが、CT(コンピュータ断層撮影)の設備を備えているところはないので、CT検査だけの患者さんも積極的に受け入れています。新型コロナウイルス感染症に感染後、咳が続く患者さんも多く、CT検査のニーズは多いですね。



発熱外来用入口

-- 導入にあたり、複数のメーカーをご覧になられたということですが、

まず開業コンサルタントを介して数社のPACSのデモを見たのですが、元々電子カルテとPACSはクラウドにしたいと思っており、紹介されたメ

ーカーはオンプレミスのシステムばかりで、求めているものとは違っていました。そこでインターネットで検索して数社に絞り、検討しました。その中でジェイマックシステムからも提案があり、実際のネット環境を利用したデモでの表示スピードも問題なく、採用することにしました。

-- なぜClimisクラウドPACSサービスに決めたのですか。

決め手としては、導入費用が他社と比較し圧倒的に安いことと保管容量が無制限ということでした。開業にあたっては様々な設備投資で費用がかかります。PACSの導入においても少しでも導入費用が抑えられるとよいですし、クラウド型であれば院内にサーバーを設置せず費用が抑えられ、省スペース化もはかれます。

保管容量を気にせず、自宅での画像参照も可能

-- 実際に導入してみていかがでしたか。

PACS 導入で重視したのは自宅でも画像を見られるということでした。実際、クリニックでも自宅でも問題なく使えています。CT画像の表示スピードも今までと同様ですし、画面もシンプルで使いやすいです。



Climisでの画像確認

読影サービスの会社への依頼やレポートの受け取りはオンラインでできてスムーズです。一方、他のクリニックから依頼されたCT 検査の画像はCD-Rに保存して提供することが多いのですが、それも簡単です。また電子カルテについてはエムスリー社のデジタルを導入しましたが、問題なくスムーズに連携できています。

-- 特にClimisクラウドPACSサービスにしてよかったところはありますか。

自宅でもクリニックにいるのと変わらない状態で電子カルテと画像データのどちらも閲覧できることです。以前勤務していた施設では院内にサーバーがあるオンプレミス型だったため、院外でデータを見ることは難しかったのですが、Climisでは安全にどちらも閲覧できます。またタブレットで画像を見ることができるのは、訪問診療にも便利だと思います。加えてデータの容量が無制限なところですね。当院では毎日CT検査があり、かなりの数の撮影件数となります。また、患者さんが他の病院での検査データを持ち込むこともあります。そうなれば、CTのデータも多くなりますが、データの容量を気にせずどんどんクラウドに取り込めます。

-- ご自宅での画像閲覧についてお聞かせください。

自宅で画像を閲覧できると、診察のための予習・復習ができます。次々と患者さんがくる診察時間中にじっくりと画像データを見るのは難しいのですが、自宅で落ち着いて画像を見直せるので、診断の見落としを防ぐことができます。また、出勤前に予約の入っている患者さんのデータを確認することができます。クリニックで同じことをしていたら、帰宅が遅くなりますが、自宅でできるのですぐに帰宅できます。子供が小さいので、家族との時間も大事にしつつ、安全で手厚い診療にもつながります。

近隣クリニックや病院との画像共有で地域連携を

-- 導入後のアフターフォローはいかがですか。

新規開業向けのタイプは1例目ということで、ジェイマックシステム社の担当の方にはかなり細かく対応してもらいました。導入後のサポートも非常に手厚く、月々の費用がこんなに安いのに大丈夫なのかとってしまうことがあります(笑)。

-- セキュリティや個人情報の観点からクラウドシステムを採用しない施設もありますが、セキュリティに不安などは感じないですか。

ジェイマックシステム社ではクリニック以外の大きな病院でもクラウドPACS製品を提供しているようですし、特に不安は感じていません。

-- クラウドPACSのメリットについてお聞かせください。

画像データをオンラインで送れることにはすごく魅力を感じました。CT検査の結果を病院間で共有して地域連携できるとよいと思っています。CT検査は設備のある大きな病院に依頼されることが多いのですが、大規模な施設



CT撮影装置

だと予約が必要で結果が出るまで数日かかります。当クリニックには放射線技師もいるので、私が診察中でもすぐに検査できます。患者さんのためにも近隣のクリニックとCT検査の連携をもっと進めていきたいです。ただ、実際には撮影した検査画像の提供はCDで依頼されることがほとんどです。Climisにはオンラインで画像を共有する機能もありますので、ゆくゆくは地域連携でこの機能を活用できればと思っています。

-- これから開業を目指している方へのメッセージをお願いします。

開業にあたって一番不安なのは「費用がどれくらいかかるか」です。電子カルテやPACSなどオンプレミスか、クラウドかを 選ぶのかは迷うと思います。どちらもメリット、デメリットはありますが、クラウドだと導入コストは抑えられます。開業後も、月々のコストばかりでなく、バージョンアップによる新機能の提供や管理コストも抑えられます。これらを考えるとクラウドの利用は、今後のニーズに合っていると思います。



取材協力:元住吉くろさき呼吸器内科クリニック
(2023年1月 m3.com掲載記事)